



自ら掴む経営エッセンス!

(記事: いとばた稲毛) 渡部成夫 過去記事も読めます⇒<http://idoina.com>

3/11 (火)

テーマ: 『倫理(ミチ)』

出席23社23名
(美浜18、他会4、非会員1)

講師: 館山市倫理法人会 会長 原口 幸春 氏

Yukiharu Haraguchi



体験をお話する時、目が輝いている原口氏。実践の楽しさが伝わってくる講話でした☆

倫理は人のミチ

原口氏は、埼玉県出身、館山市在住、58歳。昨日3月10日、東京大空襲の日は、原口氏の誕生日だった。妻からの「おめでとう」に、つつい「おかげさまで」と答えてしまったとか。

というも、やわらかくて、品があって、江戸情緒を感じさせる「おかげさまで」は、原口氏がよく使う大好きな言葉の1つだからだ。

倫理入会は平成15年。業績不振の際、家庭倫理をやっていた妻に勧められて始めて以来、講話などで学んだポイントを、1つ1つ実践していく中で、少しずつ「倫理は人のミチなのだ」と理解できてきた。少し時間ができた時には葉を、今の自分に照らし合わせながら読んでいるという。

倫理は軌道修正に必要な「ブレーキ」。助かっている。

サラリーマン時代の勤め先は倫理の会員で、『職場の教養』を使った朝礼も行われていたが、当時は「なぜ必要なのか、意味すらわからなかった」。営業一筋30年、クタクタになるまで働いて深夜帰宅するのが美德だと信じていた。

独立して気付いたことは、社長と経営者の違いだ。社長になるのは簡単だが、家庭・社員・地域への強い思いを持ってこそ、経営者だ。だが、商売が軌道に乗りお金を手にすると、その心が横道に外れる。原口氏も、昼間は社員に任せて遊び、夜も遅くまで飲む生活から、当然のごとく業績不振に陥った。

「軌道修正が必要なのは重々承知、でもどうにもできない」、そんな状況から救ってくれたのが妻で、倫理に出会った。原口氏は、「倫理のおかげで、心にブレーキが利き、節度が保てるようになった」という。今では事業も順調で、地域貢献も大切に、地元へ救急車を寄付することを3年間続けているそうだ。

理屈抜きで絶対やるべき! 不景気の会社がなくなる3つの実践。

倫理では、実践がすべてという。だが具体的に実践とは何か? 原口氏は、「事が起ってからやるのは実践ではない。事前に『スピード実践』することが大切だ」という。実体験に基づいた、仕事がポンと良くなる具体的な実践を3つ紹介してくれた。

1. 墓参り・・・親・祖先、見えない空(くう)の世界を大事にする

距離にもよるが、できれば毎月、墓参りをしたい。近い人なら、毎日やってもいい。ちなみに、日本で一番生花が売れる県は、鹿児島だ。鹿児島には、お墓参りを大切にしている人が多い。親・祖先、見えない空(くう)の世界を大事にすることだ。

2. スピード実践・・・「赤ちゃんに安全な心配り」を考えるとわかりやすい

たとえば、机の端に水の入ったコップが置いてあるとする。人が通る時に、ぶつかれば危ないし、床を汚してしまう。そばに赤ちゃんがいると思えば、誰でもそれに気付いて、事前に中央にずらすだろう。水がこぼれてから床をふくのは、本当の実践ではない。事が起こる前に、気付きをすぐする『スピード実践』こそ、倫理の実践だ。

3. 三社参り・・・とにかく理屈抜きでやってみれば、わかる

若葉区の関さんに誘われて行ったのがきっかけだった。その後集計したアンケートでは、3つの神社をお参りした19人のうち7割が、「ご利益があった」と答えている。だめだと思っていた仕事を受注できたり、そういうことが連続で起こる。原口氏自身も、お客様が順番待ちになるほどの忙しさで、しかもすぐに効果が出たという。

その三社とは、香取神社、鹿島神社、息栖神社だ。「倫理は何だかんだ言っても実践。理屈抜きにやってみてください」と、貴重な経営のエッセンスを教えてくれた。

次回 第869回MS! 3/18 (火) 6時~7時+朝食会 ホテルニューオータニ幕張 (043-297-7777)

テーマ: 『いすみ鉄道への倫理(みち)』 講師: 千葉県倫理法人会 事務長 吉田 平 氏

できるできるやればできる!

明るく楽しくなければ倫理じゃない!

・会員120社・MS30名以上・美浜を美しく